

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆずりはplus(重症心身障害児)		
○保護者評価実施期間	R8年3月2日		R8年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○従業員評価実施期間	R8年3月2日		R8年3月13日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭的で安心できる環境づくりを心掛け、一人ひとりの情緒の安定を大切にしながら、利用児が自分らしく過ごせる居場所の提供に努めている。	子どもの発達段階や体調に応じた支援を行い、子ども一人ひとりのペースを大切にしている。小さな変化や成長を丁寧に受け止め、安心して過ごせる環境づくりと関りを心がけている。	子どもがより安心して過ごせるよう、環境設定や動線、備品の見直しを行う。
2	多職種が連携し、それぞれの専門性を活かした多角的な支援を実施している。日々の情報共有やカンファレンスを通して支援の方向性を統一し、生活面・発達面の双方にアプローチできる体制を整えている。	共通の目標を見える化し、全職種で共有している。役割分担を明確にしつつ、互いに補完する関係づくりを心がけている。	多職種の視点から保護者へ助言を行い、家庭でも活かせる具体的な関わり方の提案につなげる。
3	同一建物内の認可保育園との関わりを通して、インクルーシブな環境での経験や機会を確保している。年齢や発達の異なる子ども同士の間わりを大切に、社会性や他者理解の促進につなげている。	ミュージックケアや年間行事など一緒に行い、同じ活動を共有する中で自然な関わりを促している。	関わり前後で職員間の情報共有や振り返りを行い、子ども同士の間わりづくりを丁寧に支援する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バギー等での移動スペースにゆとりがない。	・事業所に置いている座位保持椅子などの補助具の増加。 ・倉庫が少ない。	・器具類、素材の整理、整頓。
2	地域交流ができていない。	移動手段や外出時の職員配置。	外出する機会を増やし、地域資源の活用をする。
3			